



~|+≡

Café

## 今年の NITS-Café は、初めての地域開催！ @岩国市でした！ 11月6日に「NITS-Café in IWAKUNI！」を行いました！

今年もこの季節がやってきました。11月6日の午後、今まで4回は「山口市」開催でしたが、念願叶って初めての地域（山口市以外）開催です。白亜の殿堂、教育と文化と芸術の殿堂という趣の「岩国市民文化会館」をお借りして、和気藹々とした雰囲気の中で行いました。報告します。



今回は「地域巡回型公開講座」でもあり岩国市内の先生方を含めて、総勢 31 人（現職教員 17 人、教育委員会関係者 7 人、大学教員 3 人、大学院生 3 人、講師 1 人）が参加しています。



### 開会行事

主催者（教職大学院）を代表し、佐々木司専攻長が、NITS と本学教職大学院との繋がり、NITS カフェの歩みと成果、今回の意義と岩国市開催のねらい等を盛り込んだ挨拶を行いました。



### Café 「ミドルリーダーに求められる資質能力と理想の姿を描こう！」

「山口県教員育成指標」と「中堅（充実期）教員が目指す姿」、対象を第4回までの若手（自立・向上期）教員から中堅教員に移行した背景とねらいについて参加者全員で確認した後、6グループに分かれて「カフェ」を行いました。

ワークは、

- 1 出会ってきた理想のミドルリーダー
- 2 目指すべき理想のミドルリーダー像（必要条件等）
- 3 理想のミドルリーダーの目標行動 の熟議
- 4 シェアリング という流れで実施しました。

ようこそ！第5回（2021年版）「NITS-Café in IWAKUNI」へ

本日の「Café」は... 分です！

はじめの10分間は... 出会ってきた「理想のミドル」を交流しましょう！

課題 「こんな凄いや！こんなカッコイイ！こんな理想のミドルに出会ってきた！」  
→ どこが凄いやのか、何が違うのか、それはなぜなのか... 出し合って、「肝」を炙り出しましょう！

↓

続いて... 4つのジャンルを設定して、「そのジャンルにおける理想のミドルの行動（目指す姿）や力（資質能力）」を整理しましょう。  
→ ジャンルの中に「経営・運営参画」と「教職員の集団づくり」は必ず入れてください。後は任意です。  
→ 中堅層に思い浮かばなければ、教頭・副校長クラスを想定してください。アツク語り、突い、涙し、楽しく交流しましょう！

「café = ちやぶ台」スタイルです。楽しく、飲食可で、盛り上がりましょう！

「他の範となるためには、自らが高く実践的な指導力を有しておくべき」、「周囲に活力と元気を与える火付け役としてあるべき」、「管理職の経営・運営の方向と若手教員の間を組織的につなぐ役割を果たすべき」等々の考えが多く、それを「風林火山（フットワークは風の如し、巻き込む熱さは火の如し、つながりづくりは林の如し、ぶれない芯は山の如し）」と表現したり、「バランスとハンドリングが肝心で、感受性や成長マインドを大切にしよう」と表現した班もありました。

「こ・れ・ぞ・ミ・ド・ル」を頭文字とした表現創作もしましたが、自分自身が常に前向きで、明朗快活に日々の実践や運営に参画する姿を見せることが大切とした「ル・んるんと楽しむ！」や「ル・キーの心は持ち続けよう！」と訴えるメッセージが多く大変有意義なワークとなりました。

その後、山口県教育庁教職員課の吉川和夫主査より、講評・指導助言を頂きました。学校と企業等の経営スタイルの違いに伴うマネジメントや人材育成の在り方、中堅世代（教員や社員等）の立ち位置と働き方の違い等について、熟議状況や反応等に対するコメントも盛り込んで頂きました。



## 講演「ミドルリーダーを育てる ～組織づくりとマネジメント～」 住田昌治校長先生



総括講演として、横浜市立日枝小学校の住田昌治校長に講演をお願いしました。ご自身の学校経営の在り方として、「校長のキャパを超える学校づくり」「コントロール型からマネジメント型へ」「未来にコミットしたリーダーシップ」「ワクワクの共有」「コンフリクト・マネジメント」「校長自らルーチンを変えていく」「対話を生み出すファシリテーターたれ」等の至極の言葉が溢れ、参加者全員の貴重な研修機会となりました。

## 閉会行事

最後に、NITS 山口大学センターの和泉研二センター長が、研修のまとめを行うとともに岩国市教委への謝辞および閉会挨拶を行い散会した。

会には、岩国市の守山敏晴教育長さんも駆けつけて下さいました。ありがとうございました。



## 参加者のコメントから

講演のスタートから「63歳伸び盛り！」と話をされる住田先生の人柄にまず惹かれました。自分も共に学び、成長したいという根本にある意欲が、その人の言動に現れるのではないかと感じました。グループワークで、佐々木教授が「できる人は上手くいく仕組みを知っていて、組織を回している」と言われていたのですが、まさに住田先生は「任せる」ことで主体的な職員を育て、職員室を活性化させる好循環を生み出しており、「仕組みを知っている人だ！！」と分かりました。また、4月1日にビジョン共有ワークショップを行うことや校長室にハンモックを置くこと、会議の話す順番でヒエラルキーを生まないことなど、住田先生の発想力の豊かさ大変勉強になりました。校長マインドをもち、多様性を認め、生かすことのできる学校をつくっていくには、「人間性（人柄）」と「発想力（企画・行動力）」のようなものが大切だと感じました。自分自身の目指していく教師像を改めて再形成できた、そのような時間になりました。（中学校）

住田先生が特に「強靱な組織を作る」ということを強調されていたことも印象的だった。それを作っていくためには、個人個人の自立・自律が大事だが、その土台として心理的安全性や安心安全な職場が不可欠だということ学んだ。そのための日常の場作りが大事なのだと思う。柔軟な思考と「戦略」的な発想を持っていないとだめだと感じ、その発想を研ぎ澄ましていきたいと思う一方で、ゆるい職場で鈍化していく感があって危険だと思う。（高校）

